

連合創薬医療情報研究科

I	研究水準		研究 8-2
II	質の向上度		研究 8-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度において平均して教員一名当たり約 3.5 件の報告を行っており、国際学会発表件数は 10 件に達している。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の受託研究の受入状況が 3 件あることは、相応の成果である。

以上の点について、連合創薬医療情報研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、連合創薬医療情報研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を下回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、提出された現況調査表の内容では、連合創薬医療情報研究科の想定している関係者の期待される水準にあるとは言えない。

以上の点について、連合創薬医療情報研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、連合創薬医療情報研究科が想定している関係者の「期待される水準を下回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、判定を以下の

とおり変更し、第1期中期目標期間における判定として確定する。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、「難病指定されたペルオキシソーム病の診断、病態解明、治療法開発に関する研究」において、世界初となるペルオキシソーム形成異常症病因遺伝子の発見を初めとする取組が評価されて、平成21年度に日本先天代謝異常学会賞を受賞している。また、「論理的創薬開発」に係る取組においても、MAGIC-BULLET-AWARD2008を受賞しているなどの相応な成果がある。

以上の点について、連合創薬医療情報研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、連合創薬医療情報研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が2件であった。